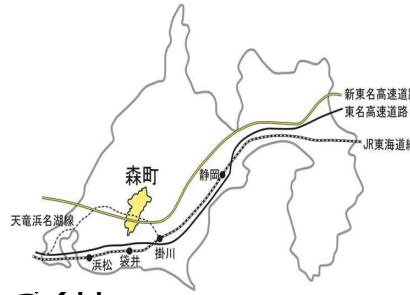


## ○ 取組の背景

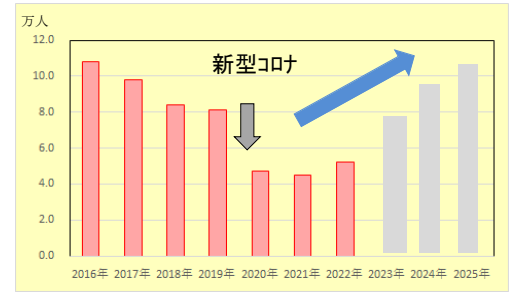
- ・都市部に隣接、高い交通の利便性  
→日帰りを主体としたグリーン・ツーリズムの推進
- ・美しい景観等の豊かな地域資源  
→地域保全、魅力ある農村地域づくり



半夏生への小径

## ○ 課題・目標

- ・核となる多様な人材と連携した組織の育成  
→地域が主体となった活動の展開
- ・地域資源を活用した商品開発  
→都市住民との交流促進、地域情報の発信



関連5施設利用者数の推移

## 普及指導員の活動

### ■ 対象集団

- 森町ツーリズム研究会 (31団体・個人)
- 森町でつながる推進部会 (12名)

### ○ 推進方向1 「多様な人材を活用した地元組織の支援」

#### (1) 活動主体となる人材の育成

- ・地域おこし協力隊員等に対する研修会、現地検討会の実施
- 「オープンハウス」開催の支援
- ・拠点施設の開設支援と活用の提案
- 専門職大学の演習の受入支援、意見交換会の実施

#### (2) 交流会の開催支援

- ・オープンハウス (年2回)、棚田交流会 (年3回)



ツーリズム研究会 現地検討会



専門職大学学生との検討会

### ○ 推進方向2 「魅力ある誘客体験商品の開発と情報発信」

#### (1) 誘客体験商品等の開発支援

- ・誘客商品の開発支援
- コーンポタージュ (甘々娘) の商品化支援
- 既存商品の継続販売、県外視察、専門家派遣
- ・体験商品の試行支援
- 専門職大学生を対象に体験商品の試行支援



コーンポタージュの試食



#### (2) 情報発信の促進

- ・情報発信方法 (体制・手法) の検討支援
- 新聞、SNSを活用した情報提供支援
- ・関係機関、地域組織、民間企業の連携



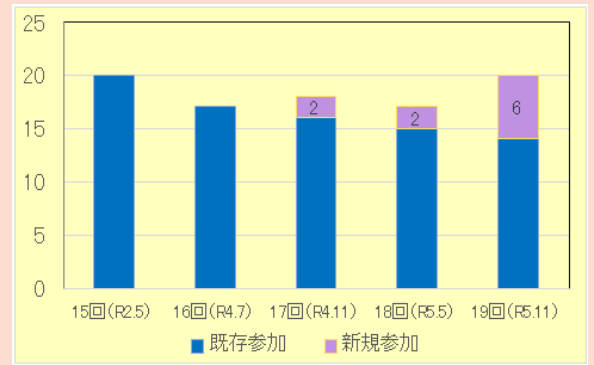
栗拾い体験の試行

# 具体的な成果

## ○ 「多様な人材を活用した地元組織の支援」

### ■ 地元と地域おこし協力隊員等が一体となった取組

- (1) オープンハウス「ぷぶふの日」春・秋 2回開催
  - ・来場者計 3,465名、新規参加の増加(6件)
- (2) 棚田交流会の開催 (田植え、稲刈り、収穫祭)
  - ・オーナー制度の導入(4区画、20a)
  - ・移住者主体の取組 (3年間で移住者3組5名)
- (3) 拠点施設「たまどん」の開設・運営開始(7月)
  - ・古民家再生整備、飲食店等営業許可の取得
  - ・オープンハウス参加、電動自転車ツアーへの対応ほか (加工品、地元農産物等の販売、休憩場所の提供)
- (4) 専門職大学学生との交流拡大(令和3年度～)
  - ・棚田交流会、オープンハウスでの運営補助
  - ・若者から見た地域振興策の提言



オープンハウス参加施設の推移



「たまどん」オープンハウスの様子

## ○ 「魅力ある誘客体験商品の開発と情報発信」

### ■ 誘客体験商品等の開発

- (1) 新商品の開発販売、既存商品の継続販売
  - ・コーンポタージュ製造2,670袋、森町産業祭等で販売開始800袋
  - 商品一部に異味あり→販売中止対応 ⇒ 製造方法改善へ
  - ・和栗バタージャム 委託製造 30個 ⇒ 自家製造へ
  - ・ブルーベリー・梨・栗ビール 各600本
  - ブルーベリー菓子3種の継続販売
- (2) 体験商品の試行
  - ・専門職大学生を対象に体験メニュー試行 (釜炒り茶製造、栗拾い、コンニャク作り等)
  - ・拠点施設「たまどん」を窓口とした里山体験の提案



森町産業祭(11/19)での販売

### ■ 情報発信の促進

地域の情報、新商品開発、拠点施設の活動(新聞、SNS)

- ・県内最大級「半夏生」自生地の見頃
- ・地場農産物を活用した新商品の販売開始
- ・電動自転車モニタリングツアーのコースに「たまどん」編入



11/18 静岡新聞



試走会の様子(11/12、たまどん)



むらサポへの掲載